

「生活者発想」を源泉とした価値創造

生活者発想 — その進化と深化 —

博報堂DYグループの考え方の原点は生活者発想です。研究所・シンクタンクでは生活者やマーケティング、クリエイティビティに関わる領域を深く探索し提言を行うだけでなく、研究成果や実験の場を広く社外に開示していることが活動の特徴です。また、社員一人ひとりに向けた啓発として生活者発想を様々な切り口から捉え直す研修も実施しています。このような取り組みが、未来をつくるクリエイティビティの源泉となり、新たな市場の開拓やさらなる発展につながることを目指しています。

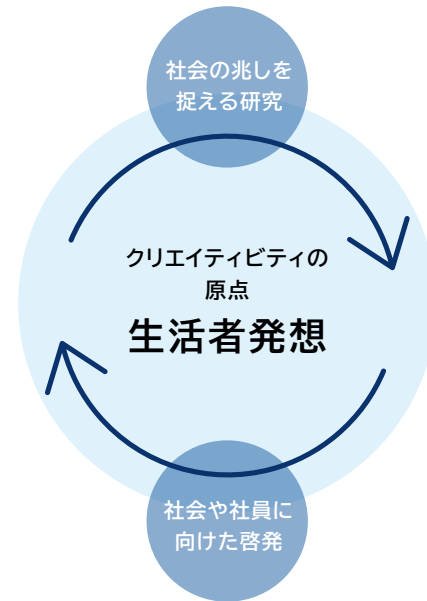
博報堂DYグループの研究所・シンクタンク

生活者発想を中心に、研究、開発、発信、教育を行っています。



大広
大広若者研究所「D'Z lab.」

読売広告社
都市生活研究所



生活者発想とは

博報堂DYグループの発想の原点。人々を単に「消費者」として捉えるのではなく、多様化した社会の中で主体性を持って生きる「生活者」として捉え、深く洞察することから新しい価値を創造していこうという考え方。生活者を誰よりも深く知っているからこそ、広告主と生活者、さらにはメディアとの架け橋をつくれるのだと考えます。

博報堂DYグループ社員への啓発研修

社員一人ひとりの気づきと実践を促すために様々な角度から生活者発想の研修プログラムを行っています。

カルチャー創生コミュニティ

2022年より始動したコミュニティ型研修。グループ各社からの受講生が生活者発想に触れ、対話と交流を重ね、新たな価値を生む企業カルチャーを育みます。3期目は参加組織を拡大し、「課題創造」と「課題解決」を実践でトレーニング。「組織の壁を超えた共創を促し、グループの競争力の源泉となる人材」の育成とネットワーク構築を目指します。



京都大学とのカルチャー創生ラボ

選抜された社員が、京都大学の出口康雄教授と生活者発想について哲学的視点から改めて理解を深める研修。毎月京都へ赴き、議論を重ね、組織文化の形成をプロアクティブにリードする「カルチャードリブンリーダー」の育成を目指します。



「生活者発想」を源泉とした価値創造

研究所・シンクタンク(博報堂)

博報堂では2024年4月に「研究デザインセンター」を立ち上げ、博報堂DYグループの競争優位の源泉である「生活者発想」の研究・開発機能を強化しています。独自の調査などを通じた生活者に関する先端情報およびナレッジの収集、大学・社外企業・研究機関との連携・研究ネットワークも活用し、生活者発想に関する基礎研究、ソリューション開発を含めた応用研究を行っています。グループ内での知見共有、クライアントへの価値提供にとどまらず、継続的な情報発信により、生活者発想の普及啓発にも積極的に取り組んでいます。



博報堂生活総合研究所
所長

帆刈 吾郎

博報堂生活総合研究所

40年以上にわたり生活者研究を行ってきたシンクタンク

博報堂生活総合研究所は、「生活者発想」を具現化するため1981年に設立されて以来、人間を単なる消費者としてではなく「主体的に行動する存在」として捉え、その価値観変化を研究しています。

生活者の価値観変化を1992年から追跡し続けている「生活定点」調査、ビッグデータやチャット記録などから生活者変化の兆しを見出す独自調査、また家庭に飛び込み生活者とともに過ごすことで、言葉だけでは分からない深層心理や人間関係の機微を探るエスノグラフィ調査など、多角的かつユニークな観点から洞察することで、当社グループの独自価値提供に寄与しています。2023年には、生活者の意識、好み、価値観などについて、年齢による違いが小さくなる現象を長期時系列調査「生活定点」のデータをもとに立証。「消費化」が進んでいる社会「消費化社会」を提言し、従来のように年齢だけでは人の価値観やニーズを捉えきれなくなってきたことを示唆しています。常識を疑い、生活者を信じる。あらゆる事象を過去の常識にとらわれることなく、虚心坦懐に生活者の価値観を大切にできるアプローチにより、いち早く発見した社会変化の芽を、当社グループではクライアント企業への提案に活用しています。

博報堂生活総合研究所の概要

設立	1981年
グローバル拠点	上海(中国)の博報堂生活総研・上海(2012年設立) バンコク(タイ)の博報堂生活総合研究所アセアン(2014年設立)
研究内容	生活者の新しい価値観や社会の変化に関する独自の研究、および情報発信 ・長期時系列調査例 生活定点調査 1,400項目の生活者意識データを1992年から32年にわたり隔年実施 ・テーマ型研究例 消費化社会(2023年)、若者30年変化(2024年)、働き直し(2025年)



博報堂生活者発想
技術研究所
所長

竹内 慶

博報堂生活者発想技術研究所

「生活者発想」を多くの人にとって使いやすい技術にするための新組織を設立

博報堂生活者発想技術研究所は、クライアント企業の「生活者発想」を推進するための研究開発を行うことを目的に、2024年に設立された専門組織です。「生活者発想」を、多くの人にとって使いやすい「技術」一すなわち、ナレッジやソリューション、ツールやプログラムとして具現化し、ご提供していくことが、私たち生活者発想技術研究所の役割です。

「VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)」という言葉に象徴される不確実で予測困難な時代において、企業には、前例や既成概念にとらわれない、より創造的な対応が求められます。そのためには、従来の「組織人」としてだけの固定観念にとらわれない、一人の「生活者」としての意思が、企業組織にとっても必要になります。また、企業の存在価値についても、経済価値のみならず、パーパスに代表されるような社会・生活者価値の実現が強く求められるようになってきています。このように、今後、ビジネスのあらゆる領域で「生活者発想」が重要になることが予想されます。

世界が不確実性を増し、AIなどのテクノロジーが驚異的な速さで進化し、その一方で「人」の重要性が再認識されている今こそ、さまざまな企業や組織の皆様と共有する価値のあるものと自負しています。

博報堂生活者発想技術研究所の概要

設立	2024年
研究内容	生活者と社会に対する洞察の深化・進化に基づき、「生活者発想」を社内外で活用可能なナレッジ、ソリューション、ツール、プログラムとして実装。 (主な研究プロジェクト) ・フォーカス型生活者研究・開発 「若者研究所」「新大人研」「100年生活者研究所」「行動デザイン研究所」他 ・生活者研究の新領域開拓 「メタバース生活者ラボ」「Humanity Lab」他 ・未来生活者発想 「未来洞察プロジェクト」「アートシンキングプログラム」他 ・マーケティング新潮流の研究・開発 「界限マーケティング研究」「先進生活者ドライブ研究」他